



にじだより

NIJIDAYORI

別府リハビリテーションセンター
障害者支援施設にじ 広報誌

第29号2025年4月



(今月号のもくじ)

- ▶ 自主トレ
 - ▶ 救急法講習会
 - ▶ 就労OB紹介
- 

ご自宅でできるトレーニングの定着に向けて

障害者支援施設「にじ」では、病気や事故による長い入院や施設生活を経て、地域生活に戻るための支援をしています。「施設の中での生活に慣れてしまうと、外での生活は過酷です」と話される方もおり、退所後にご自身でリハビリができるように入所中にさまざまな自主訓練の方法をお伝えしています。

室内で行うトレーニング

ご自身で体調管理や体のメンテナンスができることを目標に、担当療法士がご本人の状況に合わせたトレーニング資料を作成します。体操・ストレッチ・筋トレなどをスタッフと一緒に練習し、ご自身でできるようになり、定着するまで続けます。みなさん、今後の生活に向け真剣に取り組まれています。



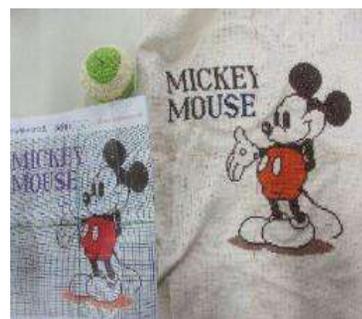
歩行の練習

にじでは「チャレンジ歩行」と称し、廊下や屋外の歩行練習をおすすめしています。担当療法士が安全を確認し、単独での歩行が可能となった方は、それぞれのペースで、可能な範囲の距離を歩行されます。土日にも練習に励み、入所された頃よりもかなり体力がついてくる方が多いです。



クラフト教室

クロスステッチ刺しゅうなど、図案を見ながら針を進めていきます。作業能力の向上だけでなく集中力や注意力のトレーニングにもなります。作品完成までには時間がかかり、根気のいる作業ですが、出来上がった時には大きな達成感が得られます。



自主学习

にじでは「にじ教室」と呼んでいます。訓練で実施しているプリント課題を自主的に行います。書字練習・脳トレ・計算・図形の問題など多種多様です。右利きの方で、右手が使えないために左手で練習される方もいます。病気後に、注意力や集中力が落ちた方も、少しずつ取り組むことでできる時間が長くなります。



模写課題



数理課題



空間認知課題



救急法講習会を開催しました！

一次救命処置の基礎的な知識や技術を再確認することを目的として、職員や利用者の方を対象に救急法講習会を行いました。利用者27名、職員13名が参加しました。

心肺蘇生の救命率上昇には ”救命の連鎖”



心肺蘇生の早期開始が傷病者の救命率を上げることや救命の連鎖(心停止の予防・発見と通報・一次救命措置・二次救命措置と集中治療)の説明をしました。その後、実際に人形を使用して心肺蘇生の実技演習を行いました。



- AEDの使用方法をお伝えし、救命の連鎖に沿った、傷病者の発見、胸骨圧迫からAEDの使用、救急隊に引き継ぐまでの一次救命処置のシミュレーションを行いました。
- 気道異物除去の説明を行い、「背部巧打法」「腹部突上げ法」を繰り返して行うことや、効果がなければ、一時救命処置を速やかに行うことを確認しました。

参加された利用者の中には医療に従事されていた方もいて、実際に心肺蘇生を行った経験談を聞くこともできました。“平時の訓練の大切さ”を改めて確認でき、とても有意義な講習会となりました。

胸骨圧迫～AED使用方法～



気道異物除去法



最初のうちは、“**強く、早く、絶え間なく**”といった手技が上手く出来ませんでしたが、回数を重ねるうちに説明通りに行うことが出来るようになりました。



就労OBのご紹介



回復期リハビリテーション病棟を退院後に、職場復帰を目指して「にじ」を利用されたAさん。病気で左半身麻痺が残り、入所当初は「今後の生活が不安」と何度も口にされていました。

懸命に訓練を続け「身の回りの清掃や洗濯」「買い物」「公共交通機関を利用した外出」などできることもたくさん増えました。徐々に社会復帰への自信もつき、職場の方の配慮もあり目標だった職場復帰を達成することができました。職場では主にパソコンを使った書類やデータ作成を行っています。

今回は職場復帰から2か月たったAさんの職場に、にじスタッフ（以下にじ）が訪問させていただきました、お話をおうかがいしてきました。

にじ「お仕事には慣れましたか？」

Aさん「配置変更があって初めは大変でしたが、徐々に慣れてきました」

にじ「業務の中で大変な作業はありますか？」

Aさん「契約書作成での製本テープをきれいに貼るのが片手では難しかったです。今は同僚に変わってもらってその分、別の業務でお返してできるように頑張っています」

にじ「生活面はどうですか」

Aさん「毎日9時には休んで、朝にはスッキリしています。休日は両親と買い物に行くことが多いです。バス通勤も問題なくできています。訓練を頑張り歩行能力が上がったので、小さな装具でも歩けるようになりました。そのおかげで革靴も履けるようになり、杖も使わずに出勤できています！」



上司の方からは「Aさんはとても真面目に頑張ってくれています」とお話されていました。頼もしいAさんの姿を見ることができました。お体には十分お気をつけて今後ますますのご活躍をお祈りしています。

Aさん、職場の皆様、ありがとうございました。



【にじ入所の対象となる方】

- 18～65歳くらいまでの方
- おおむねトイレが自立されている方
- 常時医療行為が必要のない方
- 集団生活が出来る方
- 障害者手帳をお持ちの方
(手帳をお持ちでない方もお気軽にお問合せください)

ご相談・ご質問を
お待ちしております！

入所担当：小野



社会福祉法人 農協共済
別府リハビリテーションセンター
障害者支援施設にじ

〒874-8611 大分県別府市鶴見1076-10

TEL : 0977-67-1716

FAX : 0977-67-8576

URL : <https://brc.or.jp>

